



第 78 回（平成 24 年 10 月 10 日）定例会の研究発表要旨

石狩工業港構想の歴史について

稲穂 吉田 寛義氏



現高橋知事は、二度目の当選にあたって、『札幌市の市場を核として、石狩と太平洋地域を結ぶ経済圏』というヴィジョンを述べています。この、一見現実性のないように見えるヴィジョンは、実はその裏に、明治以来の開拓の夢と歴史が隠れていると私は思います。

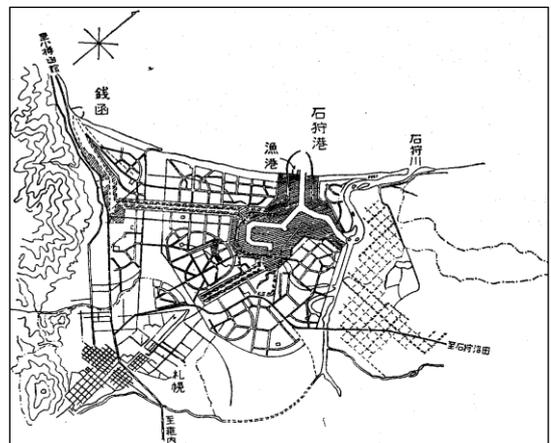
昭和 13 年、石黒北海道庁長官は、庁内の議論をもとに、『石狩川河口に港を造り、銭函、軽川を札幌の工業基地とする』構想の具体化に着手しました。

この企図は戸塚長官にも引きつがれて、昭和 17 年具体案が定まり、それに基づいて拓殖計画も変更されました。

その案によれば、石狩川河口に港を造り、外港として、さらにそこから石狩川の改修で出来た廃川も利用して内港を掘削する。銭函に副港をつくり、副港と内港とは水路で結ばれ、内港には三つの泊渠で掘削して、その周辺に工業地域を配置することになっていました。ところが構想はそれだけに止まらず、第二に勇払地域にも工業港と工業地帯を作る。そして第三に、石狩と勇払を運河で結ぶと言う非常に壮大な広がりをもつものであった。

石狩工業港と石狩工業地帯は総面積約 3 万 ha におよび、銭函・手稲・琴似・篠路・石狩札幌村の殆どが対象地域に含まれます。内港には三つの泊渠を設け、外港・内港・副港をつなぐ運河はまず外港から手稲石狩道沿いに軽川駅付近まで掘り込み、そこからさらに鉄道線路沿いに掘削して銭函副港に至る計画でした。この運河沿いに、60 万人と見込まれる工業従事者などの居住地が建設されますが、戦争中のこと、防空上の配慮からその居住地域は公園や樹木に囲まれた小集団に分散配置される計画でした。

しかし、この計画は実現しませんでした。戦争が、拓殖計画のような投資型開発に振り向ける資金を奪ったためです。第二期北海道拓殖計画も石狩工業港も中断挫折の悲劇に終わりました。



石狩工業港ならびに石狩工業地帯造成計画
昭和15~17年実地調査 北海道庁

北海道の方言を考える

前田 永井 道允氏

北海道のことばの特徴

- (1) 北海道南部には近世にすでに和人が日本語社会を築いていた。その日本語は東北方言に由来するもので、これが「北海道南部方言」になる。
- (2) 内陸部は明治以降に和人が移住し、それぞれ出身地の方言を持ち込んだ。持ち込まれた諸方言は生活のことばとして使われ、これが「北海道内陸部方言」の基になる。
- (3) 内陸部においては、次第に全国諸方言の接触・混交がなされた。
- (4) 世代の推移とともに、ことばが変化していく様子を観察できる。
- (5) アイヌ語との接触・交流があった。



北海道方言のイメージ

あるアンケートによると、東京弁は「標準語」「聞き取りやすい」「軽快」「能率的」「あっさり」「よい」「きれい」「若い女性にふさわしい」と肯定的なイメージがある。一方「早口」「固い」「深みがない」「味がない」という評価になっている。

札幌のことばは「東京弁」のイメージに似ていて、軽快さにやや欠けるが東京弁とほぼ同様と見られている。北海道弁は「味がある」「深みがある」では評価は高いが、「きたない」「大声」「若い女性にふさわしくない」「乱暴」とかなり違ったイメージになっている。さらに、浜ことばでは、「味がある」「深みがある」と考えられているが、他の項目は押しなべてマイナスの評価である。標準語からは遠く聞き取りにくく、きたなく、乱暴な感じで、若い女性にふさわしくないことばである。さらに、非効率的で、重苦しく、くどくて、大声で、悪いことばで、嫌いとされている。これは「東北弁」に対するイメージと非常によく似ている。

世代と言語変化

1世の持つ出身地の方言が、2世・3世と推移していくうちにどんどん変化し「北海道共通語」となったものが多い。(例)馬鈴薯～2世・3世は「ゴショイモ」を使い、4世は「ジャガイモ」を使う。最近スーパーの表示も「ジャガイモ」で統一されているようである。

この傾向は、語彙だけでなく、文法や音韻・アクセントにも及んでいる。

北海道独特の用法や語彙

「本州を内地」「手袋をはく」「ごみを投げる」「おぼんでした」「しばれる」「ジョッピンかる」「めんこい」「ぼくる」「あづましい」「はんかくさい」「ゆるくない」「なまら」
命令形「食べれ・寝れ・勉強すれ」
文末表現「遊ぶべ・寒いべ」「いいべや・そうだべさ」「いいんでないかい」「なんもさ・なんもなんも」……

「味がある」とも「温かみがある」とも言われる北海道弁が、時代とともに標準語化していくのはいたし方のないことではあるが、北海道の文化としていつまでも残しておきたいと思うのは私だけでしょうか。

次回の予定

次回（12月12日）は、センター相談員戸谷慎子氏の講演「手稲区介護予防センターの現況」と茂内義雄会長による「手稲歴史年表に見る大正期の手稲」（第6回）のおさらいを予定しております。

会場は、視聴覚室です。